



どんぐりころちゃんを探しに

年少 たんぽぽ組



季節は秋になり、保育室近くの桜の葉も緑色から黄色や赤色へと色づき始めました。「きれいな色の葉っぱ、みつけたよ」「変身途中の葉っぱ、あった!」と拾い集めてくる姿もみられます。

ある朝、登園してすぐに「幼稚園に来る時ね、どんぐりいっぱい落ちていたよ」と話してくれた子がいました。園内や学園内にどんぐりの木はありません。クラスのみんなが集まった場面でどんぐりの話題を取り上げてみました。するとAちゃんが「どんぐりはね、穴が開いているのはだめなんだ、中に虫がいるから。穴が開いていないのを探すといい」と教えてくれました。すると「割れているのもだめなの」「それによごれていないものもいいよね」という声もあがりました。子どもたちは知識を総動員し、友だちの話聞いて思いついたことや知っていることを話していました。

『どんぐりころちゃん』の手遊びをしたり、どんぐりの種類がわかるものを見たりしながら心待ちにして、上水沿いの散歩の日を迎えました。子どもたちは、園の先生や守衛さんに見送られウキウキしながら門を出ます。犬の散歩をしている人やウォーキングしている人に「こんにちは」と元気よく挨拶をしたり、風が吹いて上水沿いの木々の葉が揺れるとわらべうた『うえからしたから』を歌ったりして、足取りも軽やかでした。

「あっ、どんぐり!」と誰かのつぶやく声が聞こえました。どんぐりが落ちていることに気づいた子どもたちは「どんぐりころちゃん!」「まてばしいちゃんだ」「こならちゃんもいた」と、会いたかった友だちに会えたかのように歓喜の声を上げ、どんぐりを拾い始めました。どんぐりの帽子を見つけたBちゃんの姿をみて、「こっちにもあった」「みて!これはいくつもくっついている」「違う帽子もあったよ」と他の子どもどんぐりの帽子を探しています。帽子の形状の違いに気づいた子もいます。Cちゃんは帰り道でも同じ場所で拾えるように「そっと歩こう」とつぶやきました。踏みつけて歩いたらどんぐりが割れてしまう...と思ったようです。

この日集めたどんぐりは分類して、子どもたちが毎日目にする場所に置いてあります。転がしてみたり、手の中に入れてみたり、どんぐりころちゃんのかくれんぼをしたり、砂場での料理づくりに使ったりして、遊びの中に取り入れています。また、ひび割れたどんぐりの皮をむいてみたり、中から出てきた黒くてピーナツのようなものを割ってみようといういろいろ試したりする姿もみられます。

上水沿いの散歩から10日後、Dちゃんはどんぐりを触りながら「あのときお休みして行けなかった人も一緒にまた行こうよ。連れて行ってあげよう」と話しました。クラスの仲間と先生とで出かける園外への散歩は子どもたちにとって特別で、楽しいひとときです。Dちゃんにとって心動かされる楽しい経験だったからこそ「今度はみんなそろって」と思い、発せられた言葉だと感じています。(教諭・阿部和香子)



しらうめようちえん

園だより 2022年度第6号

白梅学園大学附属
白梅幼稚園
2022年11月20日発行
小平市小川町1-830



忍者海賊と仲間たち

年中 ぞう組



10月のある日、釣り竿をつくった男の子たちが、部屋で魚釣りを楽しんでいます。そこから、海で釣りをする「忍者海賊」になり、「海賊船もつくろう!」と海賊船づくりが始まりました。

集まった仲間協力してダンボールを切り、船の形は「前と後ろは、とがってるよね」「ここ入口にしようよ」と考えながら、決めていきました。船の本体ができると、「旗つくらないと!」と海賊旗に取りかかります。「ドクロだよね」「骨がこうなってる...」と、それぞれのイメージを合わせながら旗の絵を描いていきます。「真ん中の上につけたい!」ということで、筒で船に骨組みをして、頭上に旗をあげました。旗ができると、一挙に海賊船らしくなりました。

「よし!出発だー!」「船長、誰にする?」と盛り上がり、子どもたちが乗り込んでいきます。船に大砲の筒をつけて「敵が来た!」と大砲を撃つ真似をしたり、「宝探しに行こう!」と手づくりの水中眼鏡をつけてブルーシートの海に潜ったりします。剣や鉄砲など武器を改良したりして、船を根城に、海賊のイメージを膨らませていきます。

「こんなに釣れたよ」「ぼくはタコ釣る」と船の中から魚釣りも続けています。「3匹も釣れた」「もっとたくさん釣る!」と自作の魚をたくさん貼りつけた釣り糸を引き上げたり、「今度はサメにしよう」とシュモクザメやジンベエザメを空き箱でつくって釣りあげたりしています。楽しそうな様子に、忍者海賊たちにつくり方を教えてもらって、新たに釣り竿をつくる子どもたちがいます。また、おままごとでネコになりきっている子たちが、釣った魚をもらいにくる姿もあります。

さらに、魚釣りをしている海に「人魚」も登場しました。貝殻とヒレをつかって身に付け、人魚になって泳いでいます。海賊船の中で突然倒れると「海の中じゃないと動けないんだよ」「水かけてあげないと!」「海に帰してあげよう」と、周りの人魚や海賊たちが水をかけて助けてくれる場面もあり、様々な展開が生まれています。

自分たちがつくった場で、いろいろなイメージが浮かんで来て、仲間とストーリーをつくりながら遊んでいるところです。(教諭・大塚美帆)



園外保育に行ってきました

年長組は、高尾山口駅で待ち合わせ、ケーブルカーに乗り、頂上目指し山登りをしました。雨が心配されましたが、登山中は降られることもなく、高速道路や景色を眺めることができました。タコ杉の大きさには驚きました。山道では、細い道にドキドキしながらも、仲間が「ゆっくりでいいよ」「大丈夫」と励ましてくれ、慎重に歩く姿がありました。楽しみにしていたつり橋では実際の揺れを体感し、「トロルが出てきそう」とお話の世界を感じながら渡っていきました。のぼりが急な山道、根っこだらけの山道も「あと少しで休憩だよ」「頑張ろう」「俺がリュックを押してあげるからあと少し頑張って」「ここから先は道が狭いから気を付けてね」と励ましあったり注意を促しあったりして登り切りました。頂上に着くころには雨が降ってきて、レインコートを着て歩きましたが、頂上から「ヤッホー！」と叫びたいという子どもたちの思いも無事に実現できました。この時には、うっすら富士山も顔を出してくれ、霧がかった幻想的な景色を見ることができました。

薬王院に到着し、お坊さんのお話を聞き、カレーライスを食べました。お腹が減っていた子どもたちはたくさんお替りをしていました。昼食後は、洞窟探検に行ったり天狗を見たりと薬王院周辺を散策し、帰路に着きました。仲間と励まし合い、自分の足で登り切った経験は、どの子にとっても大きな自信となったことでしょう。翌日から天狗やケーブルカーをつくったりして、経験したことや取り込んだことをかたちにしていける姿が見られました。

年長組
高尾山
10月5日



出かける1週間ほど前から「キリンはいるかな」「動物園にはライオンとかいるんだよ」などと動物の話題が出るようになり、子どもたちは遠足を楽しみにしていました。

当日は比較的涼しく遠足日和でした。楽しみにしていた動物の一つがキリンです。キリンが獣舎から出てくると、一斉に柵のところに行き、キリンを見上げながら草を食べるところをじっくり見ていました。ペンギンのエリアでは、水の中が見えるガラス窓から、気持ちよさそうに泳ぐ様子を見ていました。

また、まったり寝そべっている動物たちに向かって「おーい！」と呼んでみると、子どもたちの声が動物たちに届いたのか、柵の近くに寄って来たり木をかじったり、けたたましい声で鳴いたりして、子どもたちはその様子に歓声をあげていました。クラスの仲間とバスに乗り、自分の足で歩いたことは子どもたちにとって自信となり、楽しい思い出になりました。



ゾウ、ライオン、サーバル、チーター、フラミンゴ、キリン、チンパンジー、蒙古のウマ、コウノトリ、グレービーシマウマ、シロオリックス、インコ、うさぎ、モルモット、ヤギ、ツル等を実際の目で見て匂いを嗅いで、鳴き声や動き方を楽しく見てきました。昆虫館にも入りました。直ぐ近くまで大きさも色も様々な蝶が飛んできて、頭や腕に止まりびっくりするやら喜ぶやら。草むらで日本トカゲを見つけたりすると、虫好きの人たちはなかなか前に進みません。季節の虫やカエル、蛍や珍しい虫がいましたが、大ゴキブリには「こんなの見たことない」と、ちょっと驚きだったようです。

フラミンゴとキリンは丁度食事の最中でした。細くて長い首を折り曲げて顔を水面に突っ込んで食べるフラミンゴを見て、「すごい…大丈夫なのか？」と心配そうにつぶやきます。キリンは、長い首を更に高く伸ばし頭上の籠に入っている草を舌を使って上手に巻き込みながら食べています。「黒いね～」とキリンの舌の色に気付いて、今度は自分の舌を出して「赤いもんね～」と仲間と笑い合っています。人の色との違いが不思議だったのでしょうか。

様々な動物を実際に見て色や形、大きさ小ささ、高さ低さ等を比較しています。「細い」「長い」「(フラミンゴは)1本足で立ってる。転ばないのかな～?」「(サーバルの耳が)ぴくぴくしてる」「(キリンの尻尾には)毛が付いてる」「あれ?黄色じゃない」「(キリンの模様は)ひし形とかに見える」と気付きや疑問の声が聞こえてきます。自分たちと置き換えて、「(チンパンジーは)子どもなのにロープ上手だねー」という声もありました。たくさん発見があった一日でした。



年少組
羽村市動物公園
9月15日

年中組
多摩動物公園
10月11日